

西宮のマンション事情

関学大教授ら調査し出版

関西学院大学社会学部の
大谷信介教授(56)が西宮市
ミネルヴァ書房から発売さ
れる。「マンションの社会



ゼミ生とともに作り上げた本を手にする大谷信介教授
—西宮市の関西学院大学で

12.3.24 毎月P27 (阪神)

来月10日発売「住宅政策に生かして」

学 住宅地図を活用した社会調査の試み」で、08、12年に在籍したゼミ生延べ81人が調査や執筆に関わった。大谷教授は「これまで行政はデータに基づくと住宅政策を行ってこなかった。今回明らかにしたデータをもとに、今後の行政に生かしてもらえたら」と話している。

大谷教授は三田や大阪の千里、神戸の須磨など関西のニュータウンについて研究。関学のある西宮は、マンション住人の割合が6割以上と高く、また行政がマンションに関するデータも把握していないことにも注目し、研究を始めた。

調査は、住宅地図に掲載されているマンションを、1棟ずつエクセルに入力してデータベースを作成。その結果、市内には計717

【大沢瑞季】

本は税込3150円。